令和３年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム　報告書

団体名　　山陽小野田市国際交流協会　　（都道府県：山口県　）

１．当該地域の情報　（令和４年２月末現在）

地域の課題	本市は平成１７年に小野田市と厚狭郡山陽町の１市１町が合併してできた市である。現在、旧小野田市地域（以下、小野田地区）に日本語教室が１つあるが、旧山陽町地域（以下、山陽地区）には設置されていない。本市の外国人住民は市内に散在しており、日本語学習希望者が市内唯一の教室へ通おうにも、曜日や時間帯、場所、交通手段などの問題で通えないことも多い。また、小野田日本語教室の日本語学習支援者も高齢化が進み、新たな支援者の確保も困難になっている。
在住外国人数 外国人比率	山陽小野田市人口　60,686人 外国人人口　688人 比率　1.13%
在留外国人の状況	【主な国籍】韓国（275人）、ベトナム（150人）、中国（94人）、インドネシア（42人）、フィリピン（31人） 【在留資格】特別永住者（283人）、技能実習２号ロ（166人）、永住者（54人）、技術・人文知識・国際業務(42人)、特定活動（28人） 【滞在年数・在留期間などの状況】永住者や特別永住者が多く、住民となってからの年数がかなり長い人も多い。技能実習生も多く、数年で入れ替わりが激しい。
在住外国人の日本語教育の現状	本市の外国人住民のうち半数は、現在は特別な日本語教育をほとんど要さないオールドカマーが占めているが、日本の国際化が進むにつれて、本市でも外国人就労者や技能実習生、国際結婚で来日した配偶者、外国につながる子供たちが増えており、日本語学習の需要が高まってきている。義務教育機関に属する外国につながる子供のうち、入学時に日本語学習未習の児童・生徒については、学習支援ボランティアが配置されることがあるが、体制は十分ではない。高校生や大学生、技能実習生は必要に応じて所属機関で、日本語研修を受けている人もいるが、対応が十分ではないところもある。小野田地区に市内唯一の日本語教室があり、ボランティアによる支援者で運営されている。日本語学習を希望する人なら誰でも受け入れ、学習支援や国際交流を行っている。しかし、教室の存在をそもそも知らない、知り得ても通えない学習希望者も多く、通えていても支援が十分ではないことも多い。ここ数年、教育機関や企業、日本人の配偶者や外国につながる子供たちの保護者から、学習相談を受けることも多くなり、需要が高まっていることが伺える。同教室には山陽地区からの学習者も訪れている。 COVID-19感染症予防のため、2020年3月頃からは外国人等の所属機関や公共施設が利用一時休止や利用制限などがあり、社会活動だけでなく、日本語学習支援や交流活動が以前よりさらに外国人等に支援が届きにくくなっている状況である。

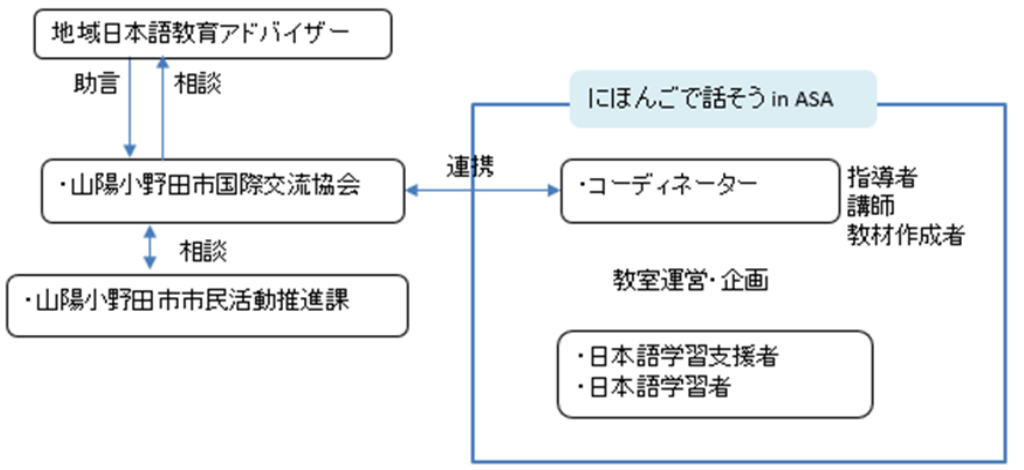
２．事業の内容

本プログラム取組年数	３年目			
事業の目的	市内、特に山陽地区に散在する外国人住民のために、日本語学習や地域の人たちと交流する機能を備えた日本語教室を開設し、地域社会からの孤立化を防ぎ、多様な背景を持つ人が安心して、楽しく生活できる多文化共生のまちづくりを目指すことを目的とする。空白地域となっている本市山陽地区で日本語教室が安定的に運営されることにより、該当地区の外国人及び日本人住民の日本語による交流の場を確保することができる。			
事業の概要	過去２年間の活動を踏まえ、今年度は日本語教室の安定的な教室運営・開催に向けて以下の活動を行った。尚、実施に当たっては、COVID-19感染症予防対策を取った。 ①日本語教室の定期開催 ・山陽地区厚狭公民館で月１回（日曜日13:30～15:30）開催した。状況に応じてオンラインで開催した。 ②日本語学習支援者の育成講座 以下の講座を実施し、支援者の発掘・募集をすると同時に支援活動の方法などに関する継続的なサポートを行った。 ・日本語学習サポート講座～入門編～全２回 ・日本語学習サポート講座～実践編～全１回 ・多文化共生フォーラムin山陽小野田の開催 ・多文化共生サポーター講座～体調不良の外国人をサポートするとき～の開催 ③在住外国人等及び地域住民への広報活動及びイベント ・WEB会議システムZOOMの使い方サポート（随時） ・コミュニティラジオでの広報活動 ・多文化共生に関する理解の促進や日本人住民と外国人住民との交流の推進を目的として、一般市民を対象に「多文化共生セミナー」を開催した。 ・広報戦略の見直しおよび新たな広報戦略の検討			
事業の対象期間	令和３年４月～令和４年３月			
前年度の実績（２年目以降の団体のみ記載）	COVID-19禍においても、プレ日本語教室を予定通り実施し、来年度の定期開催に向けて幸先の良いスタートを切ることができた。 前年度に引き続きアンケート調査を実施し、学習希望者のニーズや今後の教室の運営に関わる協力者を発掘することができた。さらに、コミュニティラジオ出演や広報による広報活動により、地域住民に外国人住民との交流の場があることを情報提供し、これにより交流や日本語学習支援希望者の発掘に繋がった。また、各種講座の開催により、外国人等との日本語を通しての交流に関心のある人たちの見識をより深め、具体的な支援方法について知っていただくことができた。そして、２年度目の目標であったプレ日本語教室を２度実施したことで、外国人等と日本人参加者との日本語を通しての交流を持たせることができた。外国人等及び日本人参加者双方から好評を得ることができ、今後も引き続き継続してほしいと要望が出た。プレ教室については、既存の小野田日本語教室のスタイル（日本語学習支援型）とは異なる「交流・対話型」で運営・実施することができた。			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	芝﨑　理恵	小野田日本語教室	代表・講師	ニーズの把握や関係機関との調整、指導者
	當房　詠子	にほんご多文化ひろば(下関)	講師	人材の養成・研修の企画・実施、指導者、講師
	永井　涼子	山口大学	准教授	人材の養成・研修の企画・実施、指導者、講師
	惠谷　依子	フリーランス	日本語教師	指導者、講師
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	井上　洋	(一財)ダイバーシティ研究所	参与	継続（３年目）
	堀　永乃	（一財）グローバル人財サポート浜松	代表理事	継続（３年目）
	仙田　武司	（公財）しまね国際センター	課長	継続（３年目）

３．日本語教室の設置に向けた検討体制

（１）地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制

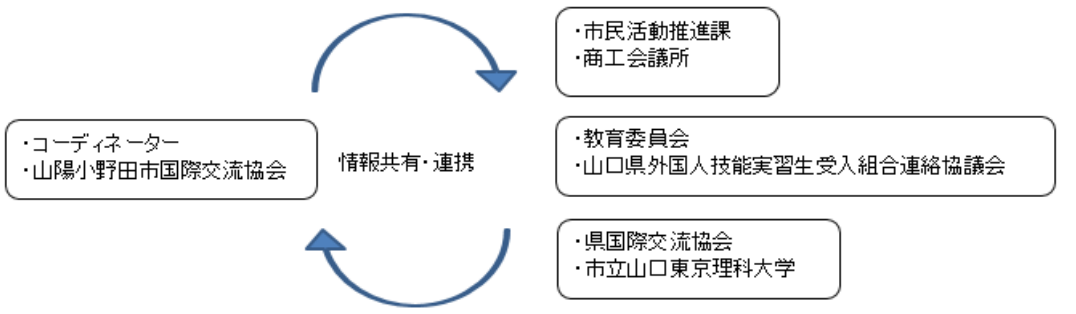


市協会、コーディネーターを中心として、外部有識者であるアドバイザー助言のもと、地域における日本語教育の実施に向けた検討を行った。教室においてはコーディネーターがメインで指導を行うが、日本語学習支援者や日本語学習者にも活動内容やテーマ設定などの企画準備・会議に参加してもらうなど、教室に関わる人全員で協力しながら運営していくことを目標とした。必要に応じて、下記（２）の連携機関に助言・協力を依頼した。

所属（担当課）	担当者名	職名
コーディネーター	芝﨑　理恵	－
コーディネーター	當房　詠子	－
コーディネーター	永井　涼子	－
コーディネーター	惠谷　依子	－
山陽小野田市国際交流協会事務局（市市民活動推進課）	河上　雄治	事務局長
山陽小野田市国際交流協会事務局（市市民活動推進課）	西﨑　　大	事務局員
山陽小野田市国際交流協会事務局（市市民活動推進課）	田島　優希	事務局員
山陽商工会議所	田中　剛男	会頭

（２）日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

地域の機関・団体との連携体制



市協会とコーディネーターを中心として、各団体などと連携・協力を図った。
教室実施にあたり、市担当課や商工会議所、教育委員会や県外国人技能実習生受入組合協議会と連携しながら外国人住民への教室実施の周知や情報提供を行い、随時情報共有を図った。日本語学習支援者に対するスキルアップやフォローアップ、地域住民や企業に対する意識啓発などに関しては、県国際交流協会や山口東京理科大学と連携して講座の開催などに取り組んだ。

組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
山陽小野田市立山口東京理科大学	－	学長	望月　正隆
山陽商工会議所	－	会頭	田中　剛男
小野田商工会議所	－	会頭	藤田　敏彦
教育委員会事務局（学校教育課）	－	－	－
教育委員会事務局（社会教育課）	－	－	－
山口県国際交流協会	－	主任主事	田中　沙織
山口県国際交流協会	－	地域日本語教育 総括コーディネーター	淺田　岐依
山口県外国人技能実習生受入組合連絡協議会	－	会長	西山　一夫

４．具体的な取組内容

（１）年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和3年 4月	・COVID-19禍での事業計画作成及び実施に向けたアイディア出し	・事業計画書素案作り	
令和3年 5月	・事業計画書作成 ・コーディネーター会議（今年度事業計画書の内容の検討と第１回プレ教室開催の打ち合わせ） ・WEB会議システムの使い方サポートの実施(随時) ・第１回 プレ教室開催「日本語で話そう!In ASA（オンライン）」	・事業計画書内容の検討及び作成 ・プレ教室開催準備と運営 ・ZOOMの使い方サポート（随時）	
令和3年 6月	・コーディネーター会議（事業計画書の内容の検討とプレ教室開催の打ち合わせ） ・第２回プレ教室開催「日本語で話そう!In ASA（オンライン）」 ・第１回　アドバイザー会議（今年度事業計画書の内容の検討） ・事業計画書提出	・事業計画書修正、提出 ・プレ教室開催準備と運営 ・ZOOMの使い方サポート（随時）	★アドバイザー会議 今年度の活動内容及び事業計画書についての助言（井上アドバイザー、堀アドバイザー、仙田アドバイザー）：オンライン
令和3年 7月	・コーディネーター会議（教室開催の打ち合わせ） ・第3回 日本語教室「日本語で話そう!In ASA」の開催	・教室開催準備と運営	
令和3年 8月	・日本語学習サポート～実践編～講座の開催 ・コーディネーター会議	・講座開催準備と運営	
令和3年 9月	・第１回　日本語学習サポート～入門編～講座の開催 ・第４回 日本語教室「日本語で話そう!In ASA」の開催 ・コーディネーター会議	・講座開催準備と運営 ・教室開催準備と運営	
令和3年 10月	・第２回　日本語学習サポート～入門編～講座の開催 ・コーディネーター会議（教室・フォーラム開催の打ち合わせ） ・第５回 日本語教室「日本語で話そう!In ASA」の開催 ・第２回アドバイザー会議 ・コーディネーター情報交換会への参加 ・空白地域解消推薦協議会への参加	・教室、講座、会議開催準備と運営 ・コーディネーター情報交換会への参加 ・空白地域解消推進協議会への参加	★アドバイザー会議 11月「多文化共生フォーラム」開催内容について協議 （井上アドバイザー、堀アドバイザー） 【オンライン】
令和3年 11月	・多文化共生フォーラムの開催 ・コーディネーター会議（教室・フォーラム開催の打ち合わせ） ・第６回 日本語教室「日本語で話そう!In ASA」の開催	・フォーラム開催準備と運営 ・教室開催準備と運営	★多文化共生フォーラム出席 講師：井上アドバイザー パネルディスカッションモデレーター：堀アドバイザー 【オンライン】
令和3年 12月	・コーディネーター会議（教室開催の打ち合わせ） ・第７回 日本語教室「日本語で話そう!In ASA」の開催 ・実施団体情報交換会への参加	・教室開催準備と運営	
令和4年 1月	・コーディネーター会議（教室開催の打ち合わせ） ・第８回 日本語教室「日本語で話そう!In ASA」の開催	・教室開催準備と運営	
令和4年 2月	・報告書作成 ・第３回　アドバイザー会議（報告書の作成、来年度の計画について協議） ・第９回 日本語教室「日本語で話そう!In ASA」の開催 ・多文化共生サポーター講座～体調不良の外国人をサポートするとき～開催	・報告書作成 ・教室開催準備と運営 ・講座開催準備と運営	★アドバイザー会議 講座の内容検討（仙田アドバイザー） 【オンライン】
令和4年 3月	・報告書提出 ・コーディネーター会議（報告書の作成、来年度の計画について協議）	・報告書提出 ・教室開催準備と運営	★アドバイザー会議 今年度活動振り返り及び来年度の活動についての検討（（井上アドバイザー、堀アドバイザー、仙田アドバイザー） 【オンライン】

（２）立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	にほんごで話そう！In ASA		
外国人参加者について	[国籍] 中国，ベトナム，インドネシア等 [属性] 技能実習生や就労者、日本人の配偶者等が主な対象	参加者数 （内 外国人数）	日本人参加者３８人 外国人等参加者２８人 （日本語指導者4名）
開催時間数	総時間　　２０　時間	内訳　　２時間　×１０回（うちプレ教室２回、本開催８回）	
目標	外国人等が日本語を使って、自立した生活を営み、地域住民との相互理解を図れるようになること		

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	２０２１年５月３０日 （日） １３：３０～１５：３０	2	オンライン	4	オンラインでこんにちは	・自己紹介 ・Zoomの使い方練習 ・グループ活動：参加者同士で「お気に入り」のものを紹介	日本語指導者　１名 コーディネーター　３名 日本人参加者　５名
2	２０２１年６月２０日 （日） １３：３０～１５：３０	2	オンライン	8	かんたんクッキング！	・料理の作り方説明のための会話表現 ・グループ活動：料理の作り方について紹介	日本語指導者　１名 コーディネーター　３名 日本人参加者　４名
3	２０２１年７月２５日 （日） １３：３０～１５：３０	2	厚狭公民館	6	ドラッグストアへ行こう！	・病院や薬局、ドラッグストアで使う会話表現 ・グループ活動：症状の伝える会話練習	日本語指導者　１名 コーディネーター　３名 日本人参加者　１２名
4	２０２１年９月２６日 （日） １３：３０～１５：３０	2	オンライン	18	趣味仲間を見つけよう	・質問の仕方などの会話表現 ・グループ活動：お互いの趣味について聞き手、話し手にわかれて会話練習	日本語指導者　１名 コーディネーター　３名 日本人参加者　10名
5	２０２１年１０月１７日 （日） １３：３０～１５：３０	2	オンライン	11	わたしのまちのここが好き！	・自分の町の紹介、相手に対する質問の会話表現 ・グループ活動：故郷についての紹介	日本語指導者　1名 コーディネーター　３名 日本人参加者　１２名
6	２０２１年１１月１４日 （日） １３：３０～１５：３０	2	厚狭公民館	7	日本の遊び	・やさしい日本語ミニ講座 ・グループ活動：日本の遊び（カルタ、けん玉など）の実践	日本語指導者　１名 コーディネーター　３名 日本人参加者　１０名
7	２０２１年12月１２日 （日） １３：３０～１５：３０	2	厚狭公民館	9	年賀状を書こう	・年賀状の書き方、年末年始の挨拶表現 ・グループ活動：年賀状の書き方練習・披露	日本語指導者　１名 コーディネーター　３名 日本人参加者　１１名
8	２０２２年１月２３日 （日） １３：３０～１５：３０	2	オンライン	2	わたしの国のお正月	・日本のお正月の会話表現 ・グループ活動：参加者同士で各国のお正月を紹介	日本語指導者　１名 コーディネーター　２名 日本人参加者　５名
9	２０２２年２月２７日 （日） １３：３０～１５：３０	2	オンライン	3	お祭り、ワッショイ！	・母国や山陽小野田市のイベントやお祭り ・グループ活動：参加者同士でイベントやお祭りを紹介	日本語指導者　1名 コーディネーター　2名 日本人参加者　3名
10	２０２２年３月２７日 （日） １３：３０～１５：３０	2	厚狭公民館	1	町の中の漢字を読もう！	・町中を散策し、目にした漢字について読み方や理解を深める ・グループ活動：参加者同士で漢字について話し合う	日本語指導者　1名 コーディネーター　2名 日本人参加者　4名

【主な活動】

にほんごで話そう！In ASA
オンライン開催の様子

にほんごで話そう！In ASA
公民館での対面開催の様子。
日本の遊びを体験しながらの学習。

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	COVID-19感染症予防対策により対面での活動が困難になった時は、オンラインで実施した。外国人参加者よりも、日本人参加者のほうがオンラインでの活動に慣れていないことが多かったので、ZOOMの使い方などをフォローした。対面とオンラインでの実施では、外国人参加者及び日本人参加者の参加者層が異なる現象が見られた。対面での教室活動ができない際の代替措置としてオンラインで教室を開催したが、対面よりもオンラインのほうが都合がよい外国人・日本人参加者もいることも明らかとなり、外国人散財地域ではオンラインでの教室活動も別途必要であることがわかった。また、対面とオンラインではメンバーも異なり、開催形態によってはできない教室活動もあるため、テーマ決め等その都度翻弄されたが、運営側で柔軟に対応するよう心掛けた。

（３）その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
日本語学習サポート～入門編～	第1回　令和3年9月11日 第2回　令和3年10月9日 13：30～15：30 【オンライン】	教室活動における支援者を発掘・育成する目的で、日本語教室とはどんな場所か、日本語を学んでいる人・サポートする人とはどんな人か、など日本語教室活動における基本について学ぶ講座を開催した。 【内容】全２回　１回２時間 第1回　テーマ：日本語学習サポートとは？ 第2回　テーマ：「標準的なカリキュラム案」を活用した教室活動 講師：當房　詠子コーディネーター
日本語学習サポート～実践編～	令和3年8月7日 13：30～15：30	日本語教室での支援経験がある方をメインに、日本語教室の役割や、日本語教師と日本語学習支援者の違いなどについて講義を行ったのち、身近な物を使った学習者とだったらどう会話するか、また、うまく会話を続けるための質問などを実践的に学べる講座を開催した。 テーマ：いろいろなリソースを使ってみる 講師：永井　涼子コーディネーター
多文化共生フォーラム in 山陽小野田	令和3年11月19日 14：00～16：30 【ハイフレックス】	日本語教室開設に向けた活動報告を含め、多文化共生に関する知識や理解を深めるとともに、日本人市民と外国人市民の交流や、関係機関の連携について考えるきっかけ作りにつなげることを目的とした。 ・基調講演「共生社会実現に向け、いまできること、すべきこと」 講師：井上　洋アドバイザー ・パネルディスカッション「外国人とともに暮らすわたしたちにできること」 モデレーター：堀　永乃アドバイザー
多文化共生サポーター講座 ～体調不良の外国人を サポートするとき～	令和4年2月23日 13：30～15：40 【オンライン】	地域に住む日本人が、外国人とのコミュニケーションやサポートができるよう、今回の講座では、ケガや体調を崩した外国人への対応についての知識やポイントを講義と演習を通して学ぶ講座を開催した。 第１部　「アメリカでの医療通訳者としての経験から　～自ら経験したことのない異文化・異なる立場へ想像力を働かせることの必要性～」 ・講師：山口東京理科大学薬学部　教授　百渓　江　氏 第２部「『やさしい日本語』を使って病院に付き添う」 ・講師　仙田　武司アドバイザー

【主な活動】

日本語学習サポート～実践編～
会場の様子

多文化共生フォーラムin 山陽小野田
会場の様子

多文化共生サポーター講座
～体調不良の外国人をサポートするとき～
オンラインの様子

５．今年度事業全体について

進捗状況	今年度はCOVID-19感染症予防対策のため、対面で実施予定の日本語学習支援者の育成講座フォローアップ編１回分と、先進地域視察が予定通り実施できなかったが、日本語教室については、形態を、対面とオンラインとに切り替えながら、安定的に定期開催することができた。また、多文化共生サポーター講座もオンラインで、多文化共生フォーラムはハイフレックス型を導入して開催することができた。
事業推進にあたり問題点と対応策	日本語教室や各種講座などを状況に応じて対面とオンラインを切り替えて実施したが、それが参加を希望するすべての外国人・日本人にとって心地よい形態であったかは疑問である。今年度は教室の運営に外国人・日本人参加者にも関わってもらおうと思っていたが、開催形態が安定しなかったため、教室活動後のアンケート結果を参考にしながら運営側で対面なら対面、オンラインならオンラインで活動しやすいテーマを選択、決定した。対面とオンラインとで参加者が全く異なる回もあり、前回の振り返りができないことなど構造的・体系的な学びの活動を行うには難点もあった。今後、日本人支援者のIT技術の向上はもとより、多様な学習ニーズや参加ニーズに対応できる体制づくりを検討する必要がある。
成果	日本語教室を定期開催したことで、日本人と外国人が日本語で交流する場を提供することができた。外国人も日本人も参加者の中にはリピーターも現れ、対話を通して相互理解が深まり、ラポールが形成された様子が活動からうかがえた。外国人参加者にとっては、日本語で日本人と交流することで日本語能力が磨かれたり、地域への関心が高まったようだった。また、自分の国のことばや文化について日本語で紹介することで、自分の国や自分のことをもっと日本人に知ってほしい、講座で登壇してみたいという希望者も現れた。最初は自信無げに参加していた日本人参加者も、やさしい日本語を使って外国人と接することにずいぶん慣れてきた印象がある。 日本人参加者についても、年代や職業等が多様な人々が参加していた。専門学校生や大学生といった若者からサラリーマン、主婦、近隣の高齢者など、さまざまな日本人が参加しており、日本人の関心の高さがうかがえたとともに、関心のある幅広い層に多文化共生社会を意識するきっかけを与えることができたといえる。また、このような多様な日本人と交流することにより、外国人はさまざまな人と日本語を使って交流することができ、地域社会に溶け込むことにつなげることができたと考えられる。さらに、オンラインで教室を開催したときには、近隣市町からの外国人の参加があり、市内だけでなく広域的に参加者を受け入れることができた。 運営側にとっては、対面、オンライン、ハイフレックス型など、さまざまな形態で日本語教室や講座を開催し、ノウハウを蓄積することができた。また、多文化共生フォーラムや多文化共生サポーター講座、日本語学習サポート講座などを実施し、日本人住民に対する多文化共生の啓蒙や、日本語学習支援の方法などを教授することができた。
地域の関係者との連携による効果	地域の大学の先生方に講座や日本語教室の講師を担当・参加していただいたおかげで、先生方の日本人学生に講座や日本語教室に参加してもらうことができた。若い外国人参加者は普段なかなか同世代の日本人と接する機会に恵まれないので、交流機会が持てたと好評であった。日本人との交流に自信をつけた外国人が地域の日本語スピーチコンテストに参加・入賞し、所属企業から喜ばれた。外国人のみならず地元企業にも日本語教室参加の好効果を理解していただけた。また、外国人参加者が地元の慈善団体に文化紹介の登壇者として招かれたり、慈善団体から外国人参加者に対するフードサポートが行われたりして、教室活動が少しずつ地域で広がりを見せている。
コーディネーターの主な活動	・日本語教室の運営準備、調整（50H） ・講座開催準備・調整（日本語学習サポート入門編・実践編、多文化共生フォーラム、多文化共生サポーター講座）（30H） ・情報交換会（コーディーネーター情報交換会、空白地域解消推進協議会、実施団体交換会）（９H） ・その他（20H） （事業計画書、報告書等の内容の検討や作成、他機関との連絡調整、広報活動、他市オンラインセミナー受講）
アドバイザーの主な助言	・他地域の先進事例紹介 ・連携機関や地元企業との関係づくりや維持の方法 ・日本語教室内に留まらない活動方法 ・運営資金獲得方法 ・人材活用方法
今後の課題	教室運営資金を確保し、連携機関との関係を維持しながら、日本語教室をこれまで通り安定的に開催することが目下の課題である。また、日本語教室の活動は、多文化共生の推進の一環であることが地元で認知されることも重要であるため、市や連携機関と多文化共生のまちづくりについて検討する協議会や委員会を設置することが必要であろう。さらには、日本語教育環境整備や多文化共生の推進に関して地域全体で進められるよう、より多様なステークホルダーを巻き込む必要がある。 また、新規・継続の外国人・日本人参加者への広報の方法が市の広報誌やSNS、口コミ、チラシの郵送に限られており、より効果的な伝達方法について検討しなければならない。それに加えて、やさしい日本語、日本語サポーター講座（入門編、経験者編）、多文化共生に関する各種講座なども４年目以降も継続して年に数回開催し、日本人住民に対する外国人理解の啓蒙活動を行う。そして、日本語教室の運営に今後は外国人・日本人参加者も積極的に参加してもらえるように工夫し、教室内外にこだわらず日本語を使っての交流活動の実施が必要である。 3年間の活動を通して、一定の成果を感じていると同時に課題もたくさん見えてきた。当事者（外国人参加者）やステークホルダーの関わり、教室や講座等の開催の仕方の模索など、常に意識を持つようにしたい。
今後の予定	日本語教室を継続して定期開催し、教室運営の安定化と多文化共生のまちづくりに向けて以下の取り組みを行う。 ・日本語教室運営会議兼多文化共生のまちづくり検討委員会（年数回不定期開催） ・教室外活動の実施（市国際交流協会主催の国際交流イベントや地域事業と日本語教室の活動を一部リンクさせ、多文化共生社会実現に資する取り組みを行う） ・人材発掘及び人材育成（多文化共生講座、やさしい日本語講座、新規日本語サポーター講座、現役日本語サポータースキルアップ講座） ・連携機関とのイベントの共同開催（山口県国際交流協会、地元支援団体、地元企業、教育機関等） ・教室の参加者を運営にも巻き込み、スタッフを増員し運営体制を整えながら、教室の開催頻度を増やしていけるよう努力する。 ・3年間の積み重ねで、市内に新しいスタイルの教室を立ち上げることができた。今後は、参加者やスタッフの声を大事にしながら、実情に合った運営ができるよう、よりよい仕組みづくりを行っていきたい。

本件担当　：　山陽小野田市国際交流協会事務局（山陽小野田市役所市民活動推進課内）